

# 熊野町のいしぶみとたずねて 第7回

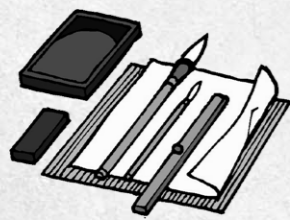
## ～ 幕末の筆商人 ～



▲「須山百平之墓」  
「同配孝子之墓」と刻まれている



▲明治34年3月 黒川穰氏 建立  
中津堆助氏 刻  
高さ：124cm、幅：49cm、奥行：24cm



須山百平は、屋号を高野垣内・号は雙松と称し、住まいは光教坊の西側にありました。墓誌の一部に「冬暇擔筆墨行商」と記されており、冬の農閑期には筆墨の行商を行い、山口から九州にかけていたようです。豊後日田へ行商に出かけた折、※広瀬淡

窓の門下生となり、書・和歌俳句が巧みと刻まれてあります。墓は、熊野中学校グラウンド西側の墓苑の中の雑草地にたたずんでいます。慶應二年（一八六六）没。

取材／民法・時光・片川・沖田

訂正とお詫び  
前回「明治期の熊野筆の先駆者達」の準田清流氏の本文中、「明治36年には」は「36年間で」の誤りでした。訂正してお詫びします。

### 江戸末期の筆販売

熊野の筆販売は、約480年前に始まったと言われていますが、当初は広島城下より仕入れていましたが、後に上方有馬よりも仕入れていました。

江戸末期には、熊野筆の生産が始まり、行商に努力して販路を開拓したと伝えられています。今回は先駆者の一人、「須山百平」の墓を紹介します。

### 須山百平

### 広瀬淡窓 (1782～1856)

江戸時代の儒学者及び教育者、漢詩人であった。豊後日田にて私塾「咸宜園」を創立。入門者は全国から集まり、延べ四千余人に達し、九州第一であった。門下からは、高野長英、大村益次郎など、多くの逸材を輩出している。頼山陽も塾を訪れている。

### 議会・委員会活動等紹介

#### 委員会視察を実施

#### 総務厚生委員会

10月24日、広島県の首都圏における情報発信拠点、広島ブランドショップ「T・A・U」について研修を実施した。



▲広島県東京事務所での研修の様子

広島県東京事務所を訪れ、職員からT・A・Uについての事業概要や、来店者数、売上状況といった運営状況などを伺うとともに、認知度の向上や魅力のある店舗づくりなど、オープン後の

課題に対する取り組みなどを伺い、それらに対する意見交換を行った。

また、T・A・U2階の物販フロアにおいては、広島県の伝統的工芸品として熊野筆が販売されており、実際に現地に赴くことで、店員から販売の現状や熊野筆に対する問い合わせ状況などを直接伺うことができた。

#### 産業建設委員会

11月5日、「我が国の食と農林漁業の再生」及び、「鳥獣被害対策の現状と課題」について、農林水産省職員の説明により研修を行った。

食と農林漁業の再生のため、食料自給率の向上等を目的として、食料・農業・農村に関して講ずべき施策が規定されており、新規就農の増加や規模拡大の加速、6次産業化などの戦略が提示されていることを伺い、熊野町における可能性

### 熊野町を視察訪問

11月18日  
熊野町西郷村議会

「筆を始めとした産業の行政の対応について」



▲委員会室での研修の様子

西郷村議会議員7名が来庁し、熊野町の産業に対する支援や、産業と雇用、地域や町民の関わりなどについて視察を行った。

11月22日  
京都府議会

「熊野ブランド(熊野筆)の取組について」



▲株式会社 仿古堂を見学

京都府議会議員8名が来庁し、熊野筆ブランドの概要や取組、化粧筆の国内外の展開などについて視察を行った。

#### 文教委員会

11月19日、20日において、「東京都杉並区立和田中学校」及び「公益財団法人日本英語検定協会」を訪問して研修を行った。

和田中学校では、様々な取り組みが行われており、世の中の面白さ、難しさなどを伝えるため、ゲスト講師に様々な専門家をお招きしたり、また、大学生のボランティア教師による土曜日の自主学习や私塾と提携した夜間塾などは、地域住民などで組織されている学



▲学校支援ボランティア専用室で説明を受ける

校支援ボランティアの力によって行われている。日本英語検定協会においては、英検の概要やメリツトなどの他、最近では英検が導入される小学校もあることを伺った。